

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

② 施設・事業所情報

名称：レイモンド元住吉保育園	種別：認可保育所		
代表者氏名：鈴木玲子	定員（利用人数）：70名（68名）		
所在地：〒211-0021 川崎市中原区木月住吉町2-24			
TEL：044-789-5695	ホームページ： https://www.lemonkai.or.jp/school/nursary/1/eimond-motosumiyoshi-hoikuen/		
【施設・事業所の概要】			
開設年月日 2018年4月1日			
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人檸檬会			
職員数	常勤職員：	22名	非常勤職員 7名
専門職員	保育士	20名	管理栄養士 1名
	看護師	1名	調理員 4名
施設・ 設備の 概要	乳児室（0～2歳児室）	2室	トイレ 4室
	幼児室（3～5歳児室）	2室	事務室 1室
	沐浴室	1室	職員休憩室 1室
	調理室	1室	
	鉄骨造り3階建て 延床面積	539.30㎡	園庭 代替園庭

③ 理念・基本方針

【法人理念】

子育てによるこびを 社会に新しい風を
笑顔あふれる子どもが住む未来の地球のために

【保育理念】

（三つのこころ）

人（命）を愛するこころ
自然と共に生きるこころ
想像（創造）するこころ

【保育方針】

子ども一人ひとりの育ちに寄り添い、それぞれの生きる力を育みます
さまざまな体験を通して、しなやかな身体と豊かな感性を育みます
人との“つながり”、社会との“つながり”を育みます

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【立地および施設の概要】

レイモンド元住吉保育園は、社会福祉法人檸檬会が運営する、2018年4月1日設立の保育園です。東急東横線元住吉駅から徒歩7分の幹線道路沿いにあります。筋向

いには中原平和公園があり、広大な敷地内の二ヶ領用水にはカモやザリガ二等の川の生き物もいて、四季折々の豊かな自然を味わっています。駅前の商店街には、八百屋、団子屋、豆腐屋、魚屋等子どもにも身近な店が並んでいます。また、近くの県立高校とは吹奏楽部の学生と子どもたちとの交流を行っています。現在、0歳児から5歳児まで68名（定員70名）が在籍しています。

【園の特徴】

- 0～2歳児の保育では、子どもたちが安心した生活を送るために、育児担当制をとって、食事、排泄、着脱等の生活援助を行い、愛着関係を大切にしています。「わらべうた」で、乳児の気持ちの安定を図り、心地よさを感じながら過ごせるようにしています。3～5歳児の保育では、異年齢や同年齢の友だちとの生活（遊び）の中で、自分の想い、他者の想いに気づき、言葉にして伝えあい、お互いを認め合う気持ちを育てています。学びを意図したコーナー保育を設定し、子どもが自ら素材、玩具に触れ、遊びを展開させる力を育てています。様々な体験を通して、五感で感じたことを表現しながら「何だろう？」を追求していく姿勢を大切にしています。
- 毎年、保育環境評価スケール（乳児用、幼児用）を使って保育の振り返りを行い、保育の質の向上に取り組んでいます。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年5月20日（契約日） ～ 2002年12月26日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	初回

⑥ 総評

◇特長や今後期待される点

1. 子どもの成長を見据えた指導計画の作成

園では、全体的な計画のもと、各年齢の年間指導計画、月間指導計画、週案を作成し、子どもの成長過程（発達のスジみち）をしっかりとらえています。特に週案では、遊びからの発展をウェブ（図式）で表し、担当職員間で子どもたちの「今」を受け止め、子どもの想いに寄り添って、子どもたちが心地よく、安心して自分の世界を広げていくためにはどのような支援、取組が必要かを確認し合っています。また、振り返りを行い、次週につなげるアイデアも検討しています。

2. 子どもの「何だろう？ どうして？」を大切にした保育実践

3～5歳児の保育室には、子どもたちの「何だろう？」「どうして？」の疑問に向き合い、職員も一緒に不思議の世界を探求するための図鑑やモノづくりの材料（廃材）、虫眼鏡等を、子どもの身近な場所に備えています。

ベランダで育てたパプリカをすりつぶして、赤いジュースや黄色の絵具を作ったり、その残りカスの食物繊維を使って紙づくりに成功したりしました。また、調理室で残った野菜の葉っぱを捨てるのはもったいないとの話から、ボールに入れてハサミでカットして肥料作りに挑戦するなど、職員は子どもの思いや考えを受け止めて、やってみることを大切にしています。また、農家のおじいちゃんからもらったサツマイモの苗を育てて、ベランダでかわいいサツマイモを収穫しています。おじいちゃんの畑で採れたサツマイモは、でっかい重さ1キロのもので、子どもたちの「どうし

て？」の疑問に、3歳児のお父さんが「おじいちゃんの畑には肥しがたくさんだから大きいお芋が育つのだよ」と説明していました。サツマイモを抱えた子どもたちは「そうなんだ！」と納得です。（調査員の観察日の一コマ）。子どもたちは、発見や成功体験を絵や造形にして、幼児クラスみんなで感動を共有し、保護者に思いを伝えています。

3. 長時間保育対応の遊びの場の工夫

3、4歳児の保育室は、午後のおやつ後は遊戯室に模様替えされ、子どもたちが思いきり体を動かして遊ぶスペースが確保されています。園庭はありませんが、大縄跳び等の動きのある活動やアスレチックの設備を整えて、設備の上段には隠れ家を作るなど、子どもたちの冒険心を掻き立てる遊びの場を設けています。

4. 行政の苦情窓口の紹介

「重要事項説明書」には、苦情窓口として当園相談窓口、第三者委員を明記しています。さらに、中原区の苦情相談窓口、かながわ福祉サービス運営適正化委員会等の行政の苦情相談窓口の記載が望まれます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回は、開園から5年で培ってきたものを、行政や法人の監査、園内の自己評価とは違った視点で見ただけなのではないかという期待をもって、第三者評価を受けさせていただきました。私たちの抱えている子どもたちや保育への思い、保護者への配慮を大変丁寧に受けとめていただき、私たちが大切にしていきたいものを再確認することができました。

今までも「開かれた保育園」を目指していましたが、評価を受け、園内の関係者だけでは足りないことに気づきました。今後は、保育園を知らない地域の方々、またこれから子育てをしようとしている若い世代にも分かりやすい保育運営と分かりやすい情報発信を行っていかうと計画中です。

また、保護者および職員アンケート結果により、コロナ禍で心の交流が減っていることが如実に現われていました。実際、私たち自身、保護者の方や地域との交流もスムーズに進まない現状に釈然としない気持ちを抱えていました。しかし、評価委員の皆さんと話をすることで、今すぐにできるアイデアもいただき、前に進んでいけるよう背中を押していただきました。来年度に向けて、保護者と保育園、職員同士の心の交流ができる機会を増やして行くことに力を入れていきたいと計画中です。

今後も子どもたちには「何だろうのその先へ」、地域、保育園の保護者、そして職員には「子育てに喜びを」を、より実感できる保育運営を行っていきます。

評価委員の皆様、本当にお世話になり、ありがとうございました。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり